



一般社団法人日本スクエアダンス協会東北統括支部 東北統括支部ニュース

<http://jsda-tohoku.miz.jp/>

発行人 水間清蔵
発行所 一般社団法人
日本スクエアダンス協会
東北統括支部
2018年1月1日発行
通巻 第142号

明けましておめでとうございます

スクエアダンスの魅力を広めて行きましょう！

東北統括支部長 水間 清蔵



平成30年あけましておめでとうございます。支部会員の皆様、今年も笑顔と健康でスクエアダンスを楽しみましょう！会員の皆様にとって良い年になりますよう心よりお祈りいたします。

昨年「広瀬川 心ときめくめぐり逢い 絆を結ぶ コンベンション」をキャッチフレーズに開催された第56回全日本スクエアダンスコンベンションin仙台も全国のスクエアダンス愛好者のご参加をいただき無事盛大に終えることが出来ました。大会終了後、全国のご参加いただいた方々より想い出多いコンベンションで楽しかったとの御礼の言葉を多数お寄せいただいております。これもひとえに、今大会の運営に携わっていただきました実行委員会はじめ支部会員の心温まる献身的なご支援のおかげと心より感謝申し上げます。

又、平成29年度の支部事業についても計画通り執行されており、各担当部門の方々のご尽力に感謝いたします。平成30年度については、9面に掲載のとおり各種事業を計画しています。その中の最重点課題は、前年度もお話ししているが、この楽しいスクエアダンスの会員数が、少子高齢化・地域社会環境の変化等に伴い全国的に伸び悩んでいる状況への対応です。

そのような中昨年、コンベンションのエキシビションに秋保湯元田植踊保存会(ユネスコ無形文化財遺産登録)の中学生ら約20人を招へいしたのは、地域文化の伝統を継承している優雅な踊りの姿がスクエアダンス次世代の方々への刺激になっていただければ、との思いの企画でした。

スクエアダンスの魅力は「適度に頭を使い、適度に身体を動かし、適度な交流もでき」、実年齢より「身・脳・心健康度合い」が優れているといわれております。このようなスクエアダンスの魅力をもっと、もっと多くの方々へ認知していただくためにはどうすれば良いか、昨年の総会においても議論をさせていただき支部として目標を設定致しました。それは年度内に各団体が初心者講習会・初心者体験会を最低各1回開催し、クラブの活性化はもとよりスクエアダンスの普及推進に努めるとの目標でした。この目標を東北支部団体及び会員全体が共有し一丸となって継続的にこつこつと推進することにより、スクエアダンスの友の輪・人の輪・ダンスの輪となり、次世代へ繋げることが出来るのではないか！前向きにチャレンジしましょう。会員の皆様ますますのご支援よろしくお願ひいたします。

笑顔溢れるスクエアダンスの魅力を広げていきましょう！

仙台コンベンション 全国から799名参加

東北統括支部が主幹を務めて準備・運営を行った「S協第56回全日本スクエアダンスコンベンション」は2017年8月18日から20日までの3日間、仙台国際ホテルで開催されました。北海道から九州まで全国から参加されたSD愛好者は799名、このうち東北統括支部地域からの参加者は257名でした。

東北統括支部は、水間支部長を委員長とし各クラブ幹事を委員とする実行委員会を2016年5月に立ち上げ、業務別に担務を定めて準備を進めてきました。念入りな準備とチームワークそして参加された会員のご支援と協力をいただき滞りなく終了することができました。

プログラムは、レベル別などでそれ

ぞの会場で踊る時間帯と、全員が一つの会場でメインストリームを踊る合同時間帯が設定され、参加者は経験に合わせて楽しむことができました。

このほか、初心者体験会、見学者の見学、教育プログラム、2コースの小旅行などが行われています。

訂正 前第141号1ページ「表2 2017年度予算書」の2016年度決算額における下から3行目の「△175」は「175」の誤りでした。確認が不十分でした。

第56回全日本スクエアダンスコンベンションin仙台特集

へこたれない強い東北の底力に触れる

一般社団法人日本スクエアダンス協会執行役員
近畿統括支部支部長 綿谷啓治

3年前の理事会で、平成29年度の第56回コンベンションについて、東北統括支部で主管を引き受けることの困難な状況が報告されました。

その理由は、未だ東日本大震災の津波の影響が尾を引いていて、以前のように会員の意欲を引き出し、みん

なで運営していくという雰囲気になれるかどうか不安であることや、未だ復帰が叶わない会員がいる中、運営のために多くのスタッフが必要であることへの不安でした。

S協としては、こんな時期であるからこそ、力を合わせて東北のみんなで協力し作り上げることが、新たな東北の力を築いていくことになると考え、参加者の目標は500でよいからやりましょうと勧めました。

それからの3年は、会場や宿泊の手配が大変であったことも想像できますが、震災以後離れていた人材や、新たな人材の掘り起しから始まり、それを組織化し、新しい東北の脈動を作るという大きな苦労があつたことが想像されます。

今回の第56回全日本スクエアダンスコンベンションIN仙台では、799名の参加があり、ご苦労の結晶が鮮やかに輝いていたことを自分の眼で見、肌に触れることができた



ことに大きな感動を覚えました。

今回MCを担当した場面では、出演コーラーの名前に読み仮名をつけ、所属クラブを入れた表が、会場のスタッフ用テーブルに置かれていました。いきなり出演コーラーを教えられても、所属クラブや名前の確認をMCがその場ですることも多いのですが、今回は細部にまで行き届いた配慮が感じられました。

前回の仙台大会で、反省点として挙げられていたホテルの部屋割りや食事の課題が、事前の会場ホテルとの交渉で、一つ一つ解決されているということもよく分かりました。

東北統括支部のスタッフの皆さんのお顔や、各地から集まった参加者にコンベンションを楽しんでもらおうと縁の下の力持ちに徹している姿に触れ、コンベンション開催の経験が次の世代に引き継がれていくということを確信しました。

震災の後、未だスクエアダンスに復帰できていない人もあると思いますが、仲間と力を合わせて踊る、仲間を盛り立てて踊る、セットの仲間を思いやって踊るこのスクエアダンスに復帰することで、心を癒した人も多いのではないかと思います。東北統括支部の会員一人一人がしっかりと前を向いて、力強く歩んでいる姿を見ることができました。

このコンベンションをジャンピングボードとして、東北が一つにまとまり、さらに強固な組織となっていくことを祈念しています。

皆さんお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

プログラム担当からの報告

実行委員会行事部プログラム担当 佐々木健自

昨年2016年5月の第1回コンベンション実行委員会から、コンベンション当日までの期間、行事部プログラム担当チーフを務めさせて頂きました。実行委員会メンバーの方々全員のご協力に感謝いたします。とくに大会期間3日間に渡り、各会場にて会場係りを務めて頂いた役員には、スムーズなプログラム進行・記録を遂行して頂きありがとうございました。

プログラム担当としては、5月末の参加申込締め切り時に、コーラー、キュー等を希望する方がどのくらいエントリーされているかがとても不安でした。結果はコーラー99名、キュー23名、カントリーダンスインストラクター5名の方々に出演していただきました。またチップ数は、スクエアダンスは3日間で合計255回(MS 126回、P 58回、PHプラスハード5回、A2 45回、C1 21回)ラウンドダンスは53回



(プログラムRD29回、ワークショップ6回、ワークショップ復習6回、SD会場RDプログラム12回)カントリーダンスは5回でした。

スクエアダンスプログラムは水間いく子氏、中川学氏、水間清蔵氏、ラウンドダンス・カントリーダンスおよび、プログラム全体取りまとめは佐々木健自が担当しました。

プログラムの企画立案は、まずは参加申込時にコーラー、キューの方々に希望(エントリー票)を提出して頂きました。その時には、「全日本スクエアダンスコンベンション出演者選定基準」(詳細:2017年3月のS協ニュース掲載)に則って記載して頂きました。提出頂いたエントリー票をSD、RD、カントリーダンスに分け、集計して上記基準に照らし合せて出発回数を決定いたしました。またその内容はコンベンションプログラムポリシーとして、S協

本部の技術委員会(S協ニュース2016.11月号名簿掲載)と複数回やり取りをして、最終承認を得て今回のプログラムを7月20日に決定いたしました。その後、決定した内容についてエントリー者全員127名に出演日時を通知して、プログラムの印刷作業に移りました。プログラム詳細は大会冊子とは別に、A3二つ折り両面カラー印刷にしました。もちろんスクエアダンス、ラウンドダンス、カントリーダンスの3日間の詳細プログラムですが、さらに必要な情報(更衣室、昼食・夕食時の会場案内等)を記載した内容にしました。参加者の高齢化に伴い、活字が大きい、見やすいプログラムに努めました。本来なら、踊りながらも見られるように、折りたたんで携帯し易いプログラムを考えましたが、作成経費も考慮してA3二つ折りとなりました。

ロビーと各会場には、それらの日別詳細プログラムのA3拡大カラーコピーを掲載してダンサーの方々に情報を提供しました。これら、会場内のプログラムもより大きく拡大して見やすいものを掲載すればさらに良いと考えましたが、やはり印刷経費を考慮して東北統括支部保有の印刷機にて対応しました。18日からの3日間は、各会場での円滑なプログラム進行運営のために、会場担当の方々にはコーラー、キュアの誘導、曲名記載依頼、セット数、カップル数の確認記載など多くの仕事を協力頂きありがとうございました。また、会場設営・運営・音響機材の設営維持、エキシビション企画に多くの方々の協力で大きな支障もなく、プログラム遂行できたことを感謝申し上げます。

写真で振り返る56th全日本スクエアダンスコンベンションin仙台 -1



朝早くから会場準備に懸命の会場担当実行委員



受付担当実行委員の皆さん(右)の手際よい受付手続き



↑ 開会式:大会会長・沖吉和祐日本スクエアダンス協会会長のご挨拶



ホテル正門の案内看板も実行委員のお手製



→
はなやかなコスチュームを
競い合う主会場のダンサー

「コンベンションin仙台」に参加して

青森ゆララSDC 金原(かなはら)真樹子



スクエアダンスを始めてこの10月で3年目になります。根気強く私のお相手をしてくださった先輩方々のようにビギナーさんのお相手をする…が私の目標になりました。お役に立っているかいささか不安ですが、ボーイをやったりガールをやったりしています。

今回参加させていただいた「コンベンションin仙台」、参加人数も多くコーラーの方々もたくさん、圧倒されっぱなしの私でしたが私自身のクラブ「青森ゆララ」の一緒に行こうって誘ってくれた先輩に勇気づけられながら踊ることができました。一生懸命聞き耳たてながら踊りました。弾けて踊っている方をみるとうらやましいです。性格上弾けれない…ニコッかウフしかできないですが充分私なりに弾けた気がします。

踊る以外にパーティでの楽しみ…他の方々の衣装を

みるのが大好きです。袖の長さや膨らみ、スカートの丈や広がり具合、襟の空き具合、シューズの色、ずっとみてても飽きないです。お気に入りの衣装がいっぱいありました。立ち姿がきれいでやさしいほほ笑みをする方、こんなダンサーになりたいなっとうつとりみています。

2日目の夕食後のイージーダンス、自称控えめな私ですが、弾けれないといいながら思いっきり弾けました、踊りまくりました。思い出すとおかしくなります。踊りまくった自分の足をなでながらよく頑張ったねっと…やっぱり笑っちゃいます。

ホテルのディナー、おいしかったです。特にホタテとサーモンの冷製、カボチャの冷たいスープがおいしかつたです。津軽弁で言えば「あどはだり」したいくらいでした。

「青森ゆララ」でまだパーティに参加したことない方に私が誘われたみたいに一緒に行こうよっと声をかけてみようと思います。

「コンベンションin仙台」に携わった方々には大変お世話になりました。そしてありがとうございました。

「コンベンションin仙台」を振り返って

秋田スクエアダンスクラブ 宮越美喜子

広瀬川～ 流れる岸辺～ 目に焼きついで耳から離れない、こんなことができるなんて考えられないエキシビションのシーンでした。思いっきり歌いました。うれしかったです。ありがとう！

私にとって全日本コンベンションは4年前の札幌大会以来の参加でしたので、東北仙台の地での開催を楽しみにしておりました。それもひょんなことからこの私がこの年齢でS協幹事ということになり、コンベンションの実行委員として一年ほど前から打ち合わせ会議に出席していましたからです。

去年は秋田県支部が東北ジャンボリー開催を主管し、運営の大変さを少しあは経験していたものの、全国コンベンションは規模が全く異なり、計り知れないほどの大変さがあるのだろうと想像していました。どのような大会でも表の華やかさのかげに裏方のご苦労が多くあることを知りました。スタッフの一員として名を連ねながらなんの役にも立たず、ご迷惑をかけたという反省しか残っていません。すみませんでした。

しかし、ダンサーとして参加した大会はとってもすばらしいものでした。ふだんあちらこちらのパーティでゲスト



コーラーをされている方々のお名前がずらりとならび、その方々の生のコールで踊る楽しさは、経験しないとわからないと感じました。そしてダンサーどうしはお互いに名前も知らないのに手を取り合ってセットに入るという楽しさ、たくさんの方々に声をかけられ踊っていただきました。これもまた、SDを長くやっていて良かったと思うことでした。

ただ、寄る年波には勝てず、足が痛くなってくるのを汐に少し休みながら踊るという三日間でした。それでもこの大会は私にとって一生記憶に残ること間違いありません。全国の皆さん感動をありがとうございました。それにこの大会に参加してくださった若い人達、小学生、中学生、高校生の方々の元気あふれるパフォーマンスには驚かされました。定義はしっかり理解しての踊り方だったのでほほえましく感じました。これからはこうした人達を引き立てSDを多くの人達に知ってもらうことは良いことと思いました。

最後に閉会式の一コマ、いくちゃんの眼にキラリと光るものを見ました。お疲れさまでした。

全日本SDコンベンションに参加して SDCサーモンドリーム 小野寺ゆみ子

「広瀬川 心ときめく めぐり逢い 紋を結ぶコンベンション」このすばらしいキヤッチフレーズそのままのコンベンションでした。

平成23年の東日本大震災当日は、勤め先で働いておりました。いつもと違う地震のため全員が帰宅となりました。

幸い自宅は無事でしたが、勤めていたお店は浸水してしまい、次の日からお店の泥出し作業、清掃を停電、水道も出ない中従業員みんなで行いました。お店の設備も被害にありました。クラブ会員の中には自宅が全壊、全半壊、自動車の流失等の被害はありました。幸い人的被害はありませんでした。全国スクエアダンスの仲間からのご支援に会員一同感謝しております。

初めてのコンベンション、全国から来られたたくさんの



SD愛好者の方々との踊りは新鮮で楽しい時間でした。レベルに合わせて会場は6部屋もあり、私はMSを中心に踊り、ラウンドの会場へも足を運んでみました。合同タイムは更にたくさんのセットができ、すばらしいコーラーさんのもとでダンスが始まると壯觀でした。必死にコールを聞き取り、必死で踊りました。そのうち余裕もでき、笑顔も絶えないくらい楽しむことができました。

全国から集まってきたたくさんの素晴らしいコーラーさんのコールで踊ることができただけでも参加してよかったですなあと思いました。個性的なコーラーさんがたくさんいて、個性的なコールによって、毎日全国各地でSDを楽しんでいる仲間がいることを実感できたコンベンションでした。

ショップでの買い物も楽しむことができ、なにより「青葉城恋唄」歌手のさとう宗幸さんの登場はとても印象的でした。

来年のコンベンション、時間と〇〇が許せば「沼津」に行ってみたい気もします。

写真で振り返る56th全日本スクエアダンスコンベンションin仙台 -2



歓迎エキシビションその1は、「秋保田植え踊り」



歓迎エキシビションその2は、前触れもなく登場した さとう宗幸さん 「青葉城恋唄」、「花は咲く」に会場は沸きました



左上 開会式で、東日本大震災の被災経験と支援への謝辞を述べる小柳美枝子さん
左下 教育プログラムは、大葉由佳さんの「笑いと健康」についてのお話でした
下 閉会式で紹介を受ける実行委員会メンバー なぜか皆笑っています



初めてのコンベンション

山形スクエアダンス愛好会 熊谷三枝子



例年にはない長雨の中、それを吹き飛ばすかのような愛好者の笑顔。色とりどりのコスチュームを身につけて、「え！ 私何歳？」と思うほど我を忘れ夢中で踊っている自分が今回の全日本コンベンションin仙台でした。

総勢約800名の参加者、役員の皆様それに携わって下さった方々のご苦労は大変だったと思います。楽しい三日間を有難う。そして感謝の気持ちでいっぱいです。

私はプラスを始めてから1年半、まだまだ初心者です。全国から集まってくれている中で踊ってみたいという欲望を抑えることを捨てきれませんでした。心が揺れ動く狭間の中でMSを踊っていました。そんな中で先輩から誘っていただき、手を引っ張られるがままプラス会場に入ってしまいました。私の心はドキドキしながら不安いっぱい、又ワクワクしている自分がいました。踊りに入ると皆さんにリードされながら会場の雰囲気に溶け込み楽しさ全開の私でした。

初日に行われたセレモニーで秋保温泉の田植え踊り、重要無形民俗文化財・ユネスコ無形文化財、保存会の皆さんのが小学生を中心とした踊りで披露してくれました。仙台市に昔から伝わっている芸能があるとは知りませんでした。子どもたちが口上を唱えながらの動き堂々としていました。その後のシークレットにされた出しものがありました。会場に青葉城恋唄のメロディーが流れ、本物のさと

う宗幸氏が現れ、会場がどよめき、一斉に拍手となり、宗幸さんの声に聞き惚れました。一曲が終わると直ぐにアンコールの声が出て、本人もびっくりしていました。結局3曲歌ってくれて、最後に会場の皆さんと青葉城恋唄を歌い、長い長い、セレモニーも我慢出来たようです。

この大会に参加して想像していたよりも若い人達が多くなったことにびっくりしました。踊りも元気そのもの活き活きとした姿に刺激を受けました。又十代と思われるコーラーさんも誕生していました。この人達はスクエアダンスの将来を背負っていかれるんだなあと頼もしさを感じ嬉しく思いました。又、若いコーラー紹介で、お爺ちゃんお祖母ちゃんが孫のコールを見に来ている事をアナウンスしていました。その祖父母が私達が日頃、例会場所としている公民館の近くに住んでいる事にも驚きました。日頃は離れて生活していても晴れ姿の孫に会うため、わざわざ仙台に来て応援している様子、そのような祖父母に親近感を覚えました。

二日目の夕方食事を終えた合同タイムは交流の輪を広げ、色々な人と知り合うことが出来ました。又、パーティ等に出かけ再度会えるのを楽しみにして、友人が増えていて欲しいと願い、ホテルに戻りました。ホテルの部屋に入っても体が疲れているのに頭が冴えて興奮のあまりなかなか眠りに入ることが出来ず不思議な感じでした。

これから私の目標は、プラスを完全にマスターして、来年には安心して無理なく踊れるように精進し、そして自分自身、体のメンテナンスをしっかりと、モチベーションを高めこれから歩んで行く人生の道に足跡をつけて行きたいと思います。

全日本SDコンベンションに参加して

福島SDC 岩野龍彦

8月18日～20日の3日間、小雨降る杜の都仙台でSDコンベンションが開催され、役員の一人として、又ダンサーとして参加しました。参加申し込み者は早々に定員に達して、約800名の参加者が踊りの輪に集いました。

初日の午前中から役員の方々は準備に余念がなく、開始直前まで音響、会場作り、受け付けなどの準備に対応しました。実行委員の方々の底を感じました。

私は初日のラウンドダンスの会場係りから担当し、ダンサーの出足を心配しましたが、そのような心配は無用でした。19日の朝一番のメインストリームの出足も心配でしたが、これまた皆様楽しく踊っていただき、特に若い人たちが盛り上げてくれて朝から大にぎわいでした。



全体を通して3日間、皆様の楽しそうに踊る姿が思い出されます。特に合同タイムはノリノリで良かったです。

19日のエキシビションでは、サプライズでさとう宗幸さんの歌を3曲も聞くことができとても良い思い出になりました。その後の伊藤達彦氏の絶妙なMCは、歴史に残る名MCではなかつたでしょうか。

最終日のメインストリームの会場係りを無事終え、最後は合同で楽しく踊らせていただきました。皆さんのが嬉しい笑顔は素晴らしい、また特に若い人たちのグループと一緒に踊らせていただき、パワーをもらいました。

楽しい3日間もあっという間に終わり、撤収作業に精を出しました。皆様本当に疲れさまでした。

県支部だより



青森県連絡協議会会長
石館 愛子

- 12月3日、青森県第1回ドサドパーティを青森市民ホールで開催しました。73名が参加し、6名の新人コーラーがデビューしています。



秋田県連絡協議会会長
小田内 マサ子

- 10月7日(土)、秋田拠点センターアルヴェを会場に秋田市主催「しみん大文化祭」が行われました。秋田県連絡協議会として4クラブ合同2セット(16名)でステージパフォーマンスを行いました。
予定では、パフォーマンス終了後アルヴェ前の屋外でSD体験講習を行うつもりでおりましたが、あいにくの雨天で屋外を中止し、急きょステージ下の客席椅子を寄せて楕円形(許可が出たスペース)で、15分間体験講習を行いました。文化祭に来場していた人たちに声を掛け、4クラブメンバー26名と4名の女性が参加してくれました。4名の参加者と来場者

にSDを知って頂くため、S協作成の宣伝チラシに各サークルの例会場・時間・連絡先を入れ50枚配布しました。

- 2017年S協秋田県連合同クリスマスパーティー
日時:2017年12月17日(日)
会場:寺内地区コミュニティセンター
時間:10:00~15:30
ダンスレベル:BASIC, MS, ☆PLUS, ☆A2



岩手県連絡協議会会長
佐々木 傳

- 9月24日(日)、盛岡キャラホールで岩手県ドーサードパーティーを開催し78名が参加しました。ダンスレベルはベーシックとMSで、コーラーさんは県内の9名が交代で担当、休憩なしのパーティでした。
ことし初めてコーラーとしてデビューされた方もおり、とても賑やかなそしてスナックも豊富に準備され楽しいパーティになりました。
- 12月3日(日)、花巻市なはんプラザ & ホテルグランシェールを会場にして岩手県クリスマスパーティー及び忘年会を開催しました。

新規加盟クラブ紹介

郡山スクエアダンスクラブは、平成24年4月1日発足したクラブです。

それまでは、昭和56年1月1日、福島スクエアダンスクラブ「スウィートピーチズ」として発足したクラブの郡山支部として、平成7年頃から、月1回例会を郡山市内の橘公民館で開催していました。それ以降、例会を少なくとも月2回以上開催し、会員も増やすべく活動したことから、本部と話し合いの結果、独立したクラブとしたほうがよいとの結論を得、「郡山スクエアダンスクラブ」となったのです。発足の経過から規約には、福島スクエアダンスクラブ「スウィートピーチズ」のファミリーであると明記しております。

発足当時は、会員10名ほどでしたが、現在の会員数は、18名に増えています。年齢構成は、60代10名、70代8名。一番若い人は、62歳という、最近流行のアクティビティシニアのクラブです。男女比は、男性6名、女性12名の構成です。

郡山市中心部の郡山中央公民館を主な会場として毎週土曜日午後6時から午後9時まで例会を開催しており

(福島県支部) 郡山スクエアダンスクラブ 高橋 利春

ます。主にメインストリームの習熟を目指し、例会前にはラジオ体操を行い体を慣らし、終了後はストレッチ体操をして体を休めています。

昨年の出席率ですが、最高の会員が92%、平均で60%と高い出席率を誇っています。

新人さんの獲得のため、これまで郡山市主催の一ふれあい発表会ー、一郡山市男女共同参画推進週間市民自主企画「スクエアダンスで脳トレ?」ー、一さんかくプラザのイベントSD公開研修会ーなどを開催した結果3名が新しい仲間になりました。



今年の総会では、高台のレストランを貸切、議案を肃々と終了させ、美味しい夕食を取った後、ダンスを楽しみました。大きな猫がホスト役において猫もいつしょにと思ったのですが、「ごろにゃーん」とつれなく断られました。

郡山市関連の行事には、積極的に参加。「例会に行くことが楽しみ」がモットーのクラブです。

第38回東北ラウンドダンス講習会、仙台市旭ヶ丘市民センターで開催

10月22日（日）仙台市旭ヶ丘市民センターを会場にして、第38回東北ラウンドダンス講習会が開催されました。講師は城東ラウンドダンスクラブの野村重一、都志子ご夫妻です。息の合ったお二人のご指導に参加者はとても満足の様子でした。参加者は定員を越える80名でした。ツーステップ、ワルツ、タンゴ、ルンバ、メレンゲ、チャチャの6曲を講習していただきました。基礎的なことはもちろ

ん、キューシートには書いていない踊り方のスタイル、コツ等楽しいご指導、丁寧な解説はとても参考になったことでしょう。

日本スクエアダンス協会では、S協機関紙にラウンドダンスの推薦曲を掲載しています。スクエアダンサーも興味のある方は是非ラウンドダンスを踊ってみませんか！



左、上 野村ご夫妻による
デモンストレーションダンス

右上 水間東北統括支部長挨拶
右下 野村重一氏挨拶



東北ラウンドダンス講習会に参加して

シュガープラムスクエアーズ 大友 喜久子



ラウンドダンスを長くなさっている先輩のお勧めで、意を決して初めて参加することになりました。この日は、衆議院議員と宮城県知事の選挙もあり、台風接近による不安と講習会参加への緊張感もあり、気の重い1日の始まりでした。しかし、講師の野村重一先生・都志子先生の情熱的な優しいご指導のおかげで、たいへん充実した記憶に残る貴重な経験をさせていただきました。

内容は、ツーステップ、ワルツ、タンゴ、ルンバ、メレンゲ、チャチャの6曲を教えていただきました。初心者の私は納得のできるステップがなかなか踏めず、難しかったです。

1番の収穫は、講師のお二人の美しく軽快で優雅なお手本のダンスを間近で拝見できることです。また。ダ

ンスの間に例えば、下を見て踊らないこと、ステップの歩幅を大きくしないこと、スライディングドアのステップで外側の足に体重をかけ過ぎないこと、パートナーを意識してアイコンタクトをとりながら相手への思いやりを忘れずに踊ることなどなど、キューシートに載っていない部分の細やかなアドバイスは、とてもありがたかったです。と同時に、これらには耳が痛く反省すべきことが多く、自分の体を思うように動かせないもどかしさを感じました。また漫然と踊るのではなく、目的や意識をもって踊ることを勧められました。これは、私が所属するクラブの例会に出席するときの気持ちの持ち方にも通じると思いました。

ラウンドダンスをスムーズに踊るためにには、基本用語をマスターしなければならないので、更なる努力を続けたいと思いました。今回の講習会開催のために尽力してくださいました先生をはじめ、関係者の皆様に感謝いたしました。ありがとうございました。

第38回ラウンドダンス講習会を受講して 仙台泉SDCウィングス 大久保 政信

第一声、本日講師野村ご夫妻によるご指導を受けて大変感動いたしました。選曲、的確なアドバイス、情熱あふれる熟練し意気投合した指導方法にも感激しています。

ツーステップ、ワルツ、タンゴ、伦バ、メレンゲ、チャチャチャとフェイズⅡからⅢ、Ⅳ、更に+1、+1+1、+2と多彩なレパートリーで全6曲と盛りだくさんでした。

私個人としてその中で特に印象に残った曲は、バイバイメレンゲという曲で、バイバイしながらパートナーと目と目を見つめ合ってからサークルアウェイして戻るというフィギアが、なんとも愛らしくほほえましく、感動する曲を初めて体験し、今でもその場面を思い出し、その余韻に嬉しさが込み上げてきます。

私はRDを始めてまだ1年です。講習会参加には期待と不安で一杯でしたが、名講師の事前の解説指導のお



かげでなんとか一通り踊ることができるようになり感謝しています。

私の所属しているFDサークルでは年間に1300曲ほど踊っておりますが、中には20回も踊られる人気の曲も数曲あります。曲、国、部門各別の中でRDも人気があり、年間70回以上もエントリーされ総合5位にランクされています。RDが踊れないでは、PTにも参加しにくいい現状ではないでしょうか。

FD爱好者として覚えなければならない曲が幾多ありますが、その中でもRDの良さが最近やっとわかるようになってきました。チェーンダンスを含めFD等にはない良さがたくさん秘められているように感じられます。

私もRDは苦手で敬遠していましたが、先輩に勧められ体験会に参加して楽しく踊れるRDに新たな喜びを見い出している今日この頃です。私の体験からRDには潜在的に会員になる方が身近に存在していると思われます。

最後に、このような講習会を企画していただき、スタッフの皆様にも感謝申し上げます。

2017年度県支部代表幹事会開催

11月26日仙台市黒松市民センターで、2017年度東北統括支部県支部代表幹事会を開催し、2017年度事業経過報告及び会計経過報告並びに2018年度事業計画及び予算案について審議しました。

報告事項

1. 2017年度事業経過報告

- ①第52回東北スクエアダンス講習会報告
- ②第56回全日本スクエアダンスコンベンションin仙台 報告
- ③第38回東北ラウンドダンス講習会報告
- ④2017年度東北スタッフ研修会報告
- ⑤東北SR指導者連絡協議会研修会報告

2. 2017度会計経過報告

3. その他

審議事項

1. 2018年度事業計画

- ①第53回東北スクエアダンス講習会計画

・開催日：2018年6月30日～7月1日

・開催地：郡山市

②第39回東北ラウンドダンス講習会計画

- ・開催日：2018年7月29日
- ・開催地：仙台市

③第43回東北スクエアダンスジャンボリー計画

- ・開催日：2018年11月10日～11日
- ・開催地：山形市

④2018年度スタッフ研修会

- ・2018年度計画見送り

2. 2018年度予算案

3. その他

- ①事業プロック分けについて確認
- ②ローテーションについて
- ③体験会関係について

その他

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 2018度定例幹事総会 | 2018年4月8日 |
| 2. 県支部代表幹事会 | 2018年11月25日 |

平成29年度東北スタッフ研修会 花巻・学び学園で開催

11月5日(日)、主管:岩手県SD連絡協議会、会場:花巻市・まなび学園、講師:カントリースクエアーズ代表伊藤達彦氏をお迎えし、「平成29年度東北スタッフ研修会」を開催しました。

秋田県の1名以外は全て岩手県内の会員で、受講者48名に講師・実行役員6名を加え、総勢54名でした。

研修テーマは、会員全員がスタッフであり、コーラー・ダンサーの役割を自覚しつつ、楽しい例会運営と会員拡大に繋げたいという願望から、「いかに例会を楽しく運営するか。」としました。

準備された資料の説明と多くの質問に対する回答・アドバイスは、セットで踊りながら行う形態でも行われました。

具体的には、スクエアダンスの歴史から未来像、そしてコスチューム。楽しい例会運営のノウハウやビギナークラ

スのワンナイトスタンドでのシンギングコールの重要性と日本語のコール例。コミュニティー25のコール例と実践。スタイルや資料によるプロコーラーのテクニック提示などコーラーの研修。ダンサーではスカートワークやダンサーの基本テクニックの実践。音響機材については、昼食時間を利用しての具体的な説明など、熱のこもった内容でした。

数多くの質問事項にも丁寧にアドバイスをいただくなど、少ない時間に盛り沢山の内容でした。

研修最後は「なめんなよベーシック」で躍り込み、ベーシックでもこんなに楽しく例会ができる実践例が示されました。

参加者みんなが、一日楽しいジョークと笑顔の絶えない研修会を喜んでおりました。

東北スタッフ研修会に参加して

イーハトーブSDC 大谷 恵美子



今年の東北スタッフ研修会は11月5日、駅に降りたら何もない町(笑)花巻で、毛蟹の町・北海道森町OK牧場出身(笑)の伊藤達彦先生を講師にお迎えして開催されました。

朝の気温が低かったこともあり、研修開始前の会場は、適度な緊張感

に包まれていました。そのような中で伊藤先生のトークが始まりました。気の利いたギャグを交えてのテンポの良い楽しいお話を聞いているうちにすっかり心が和み、気持ちがリラックスしてきました。

心のウォーミングアップが完了しました。きっとおひさまも先生の楽しいお話に耳を傾けていて、思わずニッコリとほほ笑んでくれたのでしょう。朝から小雨まじりの灰色の空がいつのまにか光が射していて、窓の外は明るくなっていました。

(右ページへ続く)



(左) 伊藤達彦講師による講義



(中)・(左) 実技の指導



水間清藏東北統括支部長挨拶



佐々木傳岩手県支部長挨拶



伊藤達彦講師の挨拶と受講者の皆さん

すっかり会場の空気も暖まった中で始まった研修は、とても素晴らしいものでした。45年という長期にわたってスクエアダンスと向き合い、情熱を注ぎ、研究を重ねて来られたご経験をもとに準備された講義内容は熟成され、それに基づく指導力にとても感動しました。

年齢もダンス経験もそれぞれ異なる参加者のひとりひとりに目と心を配り、わかりやすい言葉でていねいにご指導していただきました。すべての参加者が心から楽しみ、笑顔になり、『スクエアダンスをやっていて良かった。』、『今日ここに来てよかった。』というような満足した表情をしていました。

スクエアダンスには、日常から非日常に変身できる楽しみがあること、例会を楽しく運営するためのアドバイス、ビギナーさんの育て方のテクニック等々ダンサーとコーラーの両方の立場から説明していただきました。またスクエアダンスの究極の楽しみである多くの人の出会いと交流の輪を広げるために、組織作りも大切であるということを教えていただきました。とても充実した研修会でした。

人は誰でも皆老化します。誰にも止められません。しかし、その速さを遅くすることはちょっとした心掛けで可能になるのではないでしょうか。大人になると時間割の

中から体育の時間がなくなり、体を動かす機会が少なくなります。又、日々の暮らしの中で、三角コーナーの生ゴミのように、心の中に老廃物が貯まり、笑顔が少なくなります。気持ちよく体を動かし、笑顔になれる時間を作ることで老化を遅らせることができるのかなと私は考えます。その願いを叶えてくれるもの一つにスクエアダンスがあると思います。

ここち良い音楽に合わせてゲームのように変化に富んだ隊形のダンスで体と頭を動かし、会員の皆とおやつを囲んでの楽しいおしゃべり、日常をちょっとだけ忘れて心が解放される素晴らしいひとときです。これで気持ちも軽くなり、表情も生き生きしてきます。ダンスレベルは、楽しく参加し何度も繰り返すうちに向上していくと思います。続けることが一番大切だと思います。

進行を止めることのできない老化の坂道ですが、直滑降はいやです。振幅の大きいターンを繰り返しながらゆっくりたどっていきたいと思います。そのためにも、今回の研修の感動を忘れずに、新しい出会いを楽しみにスクエアダンスを続けていきたいと思います。

駅に降りたら何もない町「花巻」の地に育つ私たちに、スクエアダンスを楽しむために必要な豊かな栄養分を届けてくださった伊藤先生に心より感謝いたします。

東北スタッフ研修会参加の記

SDCサーモンドリーム 北村 節子

平成29年11月5日、花巻市の・「まなび学園」を会場にして開催された「東北スタッフ研修会」に参加してきました。テーマは、「どうしたら例会が楽しくなるか、どうしたら会員拡大につながるか。」などで、講師はこの道の大ベテランであられる伊藤達彦氏(カントリースクエアーズ代表)。会場は、伊藤先生のお話をぜひ伺いたいという54名の参加者で一杯になり盛会でした。

実は参加を誘われたとき、開催要項に記された研修内容を見て、盛りたくさんんの内容に驚き、テーマによつては私にとっては場違いな感じもし、気が重く不安を抱きながらの参加でした。しかし、終わってみれば、講師の伊藤先生が、「今回の研修内容はふつう2泊3日かけて行うもの。」と話されたように、ボリューム、内容とも魅力あふれるもので、大変参考になるものでした。お話を聞いているうちに、伊藤先生のペースにすっかり



はめ込まれ、講義の流れに溶け込むのにそう時間はかかりませんでした。笑いを交えた的確なお話に「なるほど、なるほど」、「そうだ、そうだ」と気持ちよく、楽しくうなずいているうちに時間が経過してしまい、気づいたら講義が終わってしまったという状況でした。

伊藤先生は事前にそれぞれのサークルから悩みや質問等を受けておられ、それらに対して伊藤先生がこれまで自ら実践された事例を具体的に教えてくださいました。これらのお話をうかがって、私たちのサークルの現状に照らしあわせてみて反省することが多くありました。例えば、代表者に負担をかけすぎているのではないかなど、反省した内容を今後サークル内で提案する勇気も必要かなと思いこんでしまうこともあり、これから頑張ってみようと思いました。ときには伊藤先生は厳しい指摘や批判、要求もされ、感謝の気持ちいっぱいの研修になりました。

最後になりますが研修会を企画してくださった方々に心から感謝を申し上げます。また研修会に参加された皆さんと一緒にさせていただき、嬉しく思っております。ありがとうございました。

東北統括支部・県支部事業、クラブパーティ情報

今後おおよそ1年間に開催予定の東北統括支部事業(★)、県支部事業(☆)、クラブアニバーサリーパーティ情報(○)を掲載します。東北統括支部事業(★)は9面に記載のとおり県支部代表幹事会で審議されたものですが、その後会場が決定した箇所もあります。クラブの行事を計画するときの参考にするため掲載します。今後、開催日・会場の変更もありますので、ご了承ください。

★第53回東北スクエアダンス講習会

【開催日】2018/6/30～7/1 【会場】郡山市青少年会館

★第39回東北ラウンドダンス講習会

【開催日】2018/7/29 【会場】仙台市 会場未定

★第43回東北スクエアダンスジャンボリー

【開催日】2018/11/10～11 【会場】ヒルズサンピア山形

☆岩手県早春SDパーティ

【開催日時】2018/2/18(日) 10:00～15:30 【会場】盛岡市・キャラホール

☆岩手県連絡協議会幹事総会

【開催日】2018/4/1(日) 10:00～15:30 【会場】花巻市・まなび学園

☆山形県第19回初心者講習会＆交流会

【開催日】2018/4/1(日) 10:00～15:30 【会場】山形テルサ 【講師】佐藤英俊氏

○弘前スクエアダンスクラブ10周年アニバーサリー

【開催日】2018/4/22(日) 【会場】弘前市民文化交流館(予定)

【プログラム】MS・P 【ゲスト】伊藤 達彦氏、鈴木 孝子氏

【参加費】3,000円(詳細はチラシをご覧ください) 【問合せ先】090-2986-1104(福井深雪)

○第21回スウィートファミリーアニバーサリー

【開催日】2018/5/26(土)～27(日) 【会場】26日：未定 27日：日立システムズホール仙台

【ゲスト】「SD三銃士」荒木 義昭氏、中川 功氏、林下 正夫氏

【問合せ先】Tel/Fax 022-378-3071(水間 清蔵)

○第8回青森ゆララスクエアダンスクラブアニバーサリー

【開催日】2018/7/8(日) 【会場】ワ・ラッセ

【プログラム】MS・P(☆A) 【ゲスト】島田 秀幸氏

【参加費】3,000円(詳細はチラシをご覧ください) 【問合せ先】017-742-6705(石館 愛子)

編集人の窓

▼綿谷啓治S協執行役員は本紙への寄稿(2面)の中で、「3年前の理事会で、平成29年度の第56回コンベンションについて、東北統括支部で主管を引き受けることの困難な状況が報告されました。」と述べられています。東日本大震災の影響が尾を引いているためとのことです。▼そのようなことがあったのかと意外感を覚えました。3年前とは震災後3年目頃でしょうか。S協が主催し東北統括支部が主幹となって宮城、岩手、福島の各県で3年連続して実施した復興祈念パーティの後頃と思われますが、同パーティは主管たる東北統括支部がしっかり運営し、成功していました。もとより復興祈念パーティとコンベンションとは規模が全く異なりますが、東北統括支部はそれまで何回もコンベンションを主管して実施しています。震災後6年を経過した時点で、震災の影響のため主管を引き受けることが困難な状況とは個人的に考えられなかったからです。▼昨2017年、東北統括支部が主幹し

て開催した56th全日本SDコンベンションin仙台は、水間清蔵実行委員長の経験豊富なリーダーシップの下、各クラブ幹事によるスタッフが一致協力してそれぞれの役割を果たし、好評のうちに成功裏に終えています。3年前の理事会における「引き受けることの困難な状況」はめでたくも杞憂に終わりました。▼次に東北統括支部に主幹が回ってくる7年後のコンベンションのときは世代交代が進み、まさに困難な状況が想定されますが、綿谷執行役員のいわれる「東北の底力」で、今回の経験を踏まえ必ずや困難な状況は解決されることでしょう。▼今号は、コンベンションin仙台を特集し、他の支部事業についても報告しているため12ページになりました。寄稿を快く引き受けていただき、期日までに届けてくださいました原稿執筆者の皆様にお礼を申し上げます。2018年、さち多かれかし。ありがとうございました。

(SDCスウィートメモリーズ赤塚吉雄 yoshioakatsuka@gmail.com)